

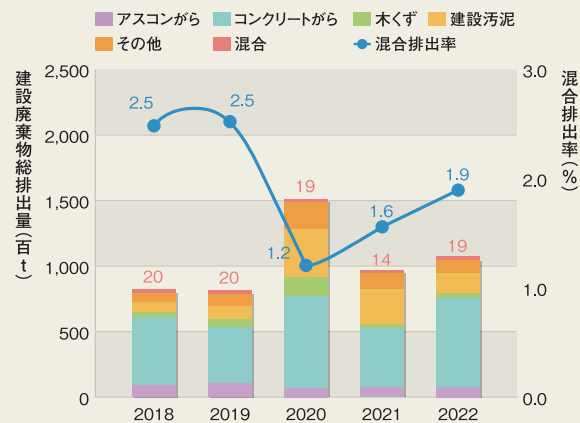
建設廃棄物の発生抑制及びリサイクル推進への取組み

当社では、建設リサイクル推進計画2020(国土交通省)に対応し、**建設リサイクル推進活動**
【発生抑制、リサイクル推進、適正処理】を通じて、環境負荷の低減や建設副産物の有効利用に取り組んでいます。

1 発生抑制への取組み状況

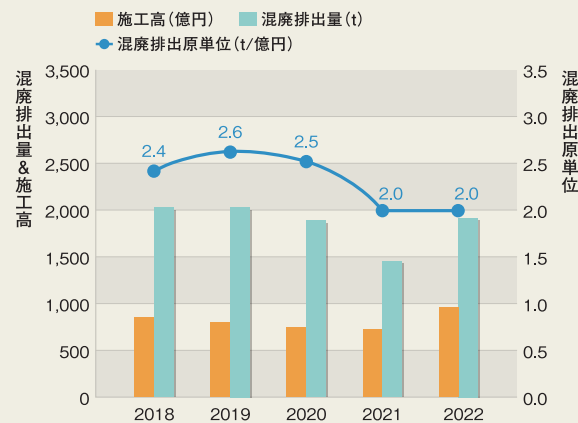
初めに、国土交通省が掲げる「建設リサイクル推進計画2020」では、建設副産物の工事現場の分別や再資源化、そして再生資源利用の促進が計られています。そのなかで、混合廃棄物の【排出率】は2024年度達成基準値**3.0%**以下を設定しています。

① 建設廃棄物 混合排出率 推移



当社の実績では、(グラフ①)2022年度総排出量(980百t)に対して、混合廃棄物(19百t)の排出割合は**1.9%**と**平年並み水準**となりました。また、建設混合廃棄物の当社基準年度 2005年度(34百t)比では、**45%**の削減で推進しています。

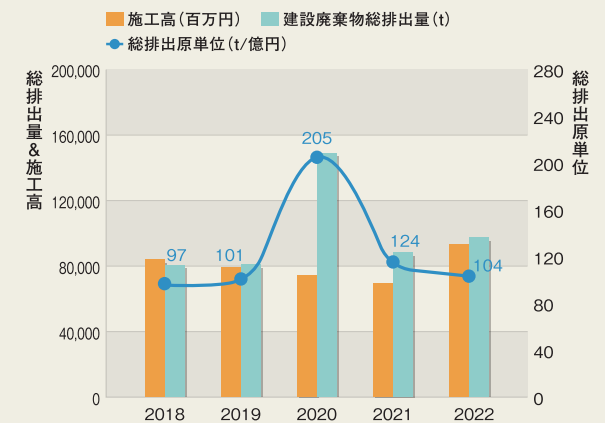
② 混合廃棄物 排出原単位 推移



次に、(グラフ②)2022年度の混合廃棄物排出原単位は**2.0t/億円**となり、**平年並み水準**となりました。

今後も、産業廃棄物の分別管理を行い混合廃棄物の排出削減に努めます。

③ 建設廃棄物 総排出原単位 推移



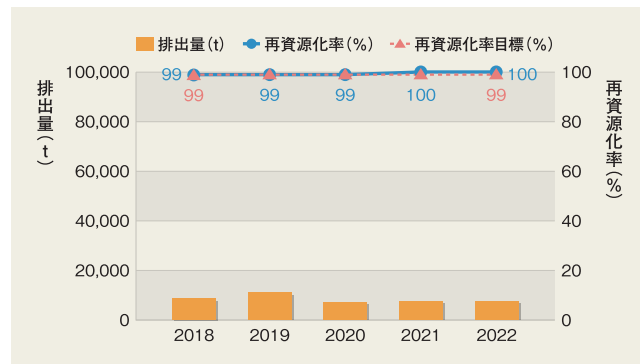
最後に、(グラフ③)2022年度の建設廃棄物総排出原単位は**104t/億円**となり、**平年並みの水準**となりました。

今後も、建設混合廃棄物の発生量抑制を基本ベースとして環境活動に取り組んでまいります。

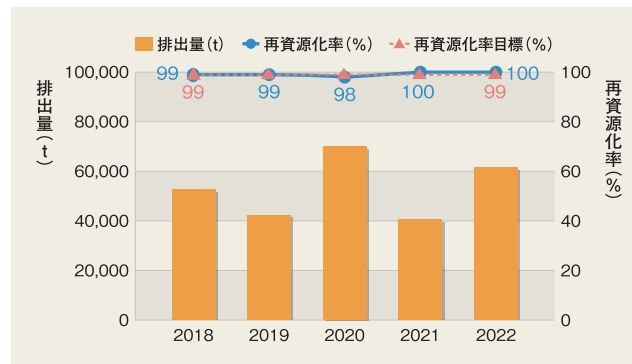
2 リサイクル促進への取組み

「建設リサイクル推進計画2020」(国土交通省)では、主な建設廃棄物について、【再資源化／縮減率】の2024年度達成基準値を設定しています。(赤破線、赤字で示す)

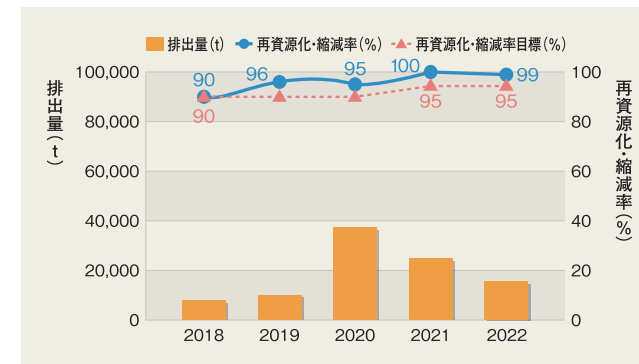
④ アスファルトコンクリート 排出量 再資源化率推移



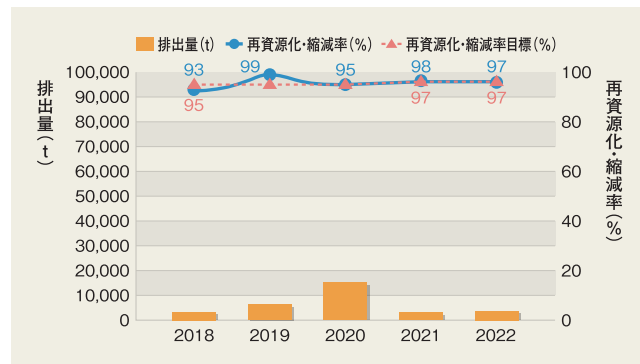
⑤ コンクリート 排出量 再資源化率推移



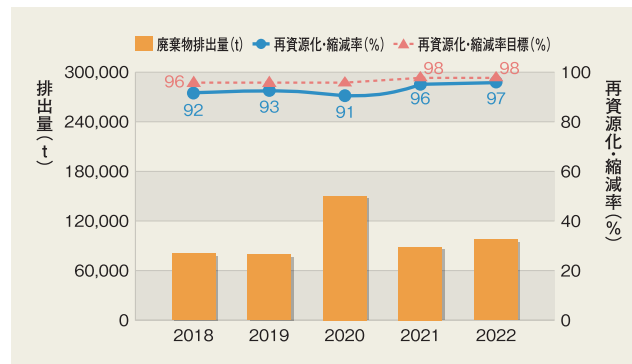
⑥ 建設汚泥 排出量 再資源化・縮減率推移



⑦ 建設発生木材 排出量 再資源化・縮減率推移



⑧ 建設廃棄物 全排出量 再資源化・縮減率推移



当社において2022年度は、アスファルトコンクリート(グラフ④)、コンクリート塊(グラフ⑤)、建設汚泥(グラフ⑥)、建設発生木材(再資源化・縮減率)(グラフ⑦)は目標達成となり、建設廃棄物全排出量(再資源化・縮減率(グラフ⑧))は若干の未達となりましたが、目標値に近い数値で推移しています。



今後も環境保全に配慮した対策・工法を考えリサイクル活動を続けていきます。そして、未来の社会が継続的に発展するように貢献してまいります。

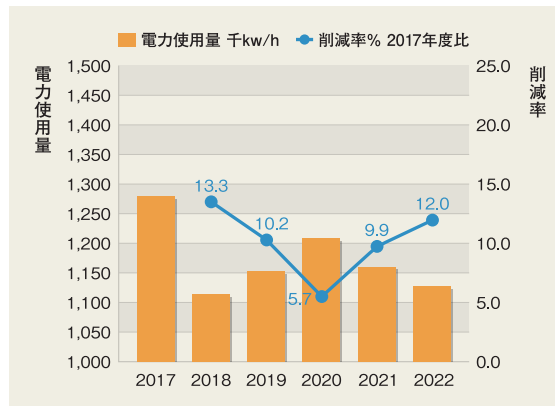
オフィス部門の取組み

3 地球温暖化防止への取組み

環境目標以外に、本店と支店において、電力使用(グラフ⑨)の低減活動を推進し、地球温暖化に繋がる二酸化炭素(CO₂)排出の削減に努めています。

2017年度の実績に比べて2023年度は約**12.0%**の節電となりました。これは「杉の木」のCO₂吸収量に換算すると約**3,960本分**に相当します。また、CO₂削減重量では**55t**(ダンプトラック10t車5台分に相当)、CO₂削減容量では約**28,000m³**(プール**62個分**に相当)になります。(※プール:25m×15m×1.2m)

⑨ オフィス部門 電力使用率推移



地球温暖化防止への貢献

施工における二酸化炭素排出量の削減について

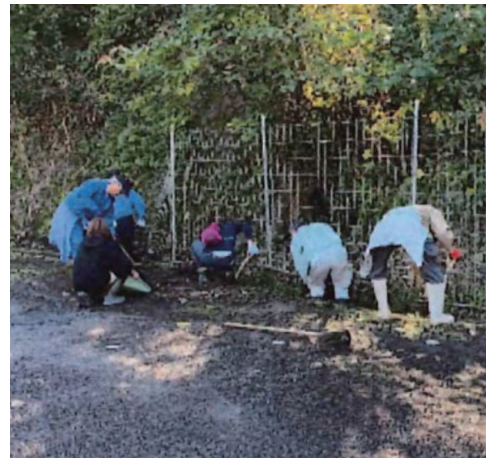
当社は、基準年度(2013年度)排出実績(原単位:施工高当りCO₂排出量)に対して2030~2040年度までに40%削減の実現を目指して取り組んでいます。

今後も、環境へ配慮した活動に取り組んでまいります。

社会貢献活動



旭川一斉清掃



一の木ダム周辺クリーンアップ作戦



耕作放棄地解消支援活動



リフレッシュ瀬戸内IN坂出

これからも地域の環境保全に配慮した活動に参加してまいります。